

水産加工

「しっかり研修積みたい」

気仙沼・本吉地方 ミャンマーから初の実習生

気仙沼・本吉地方では初めてとなる、ミャンマーからの外国人技能実習生の受け入れが始まった。20日には南三陸ホテル観洋で歓迎式が行われ、8人の実習生が日本の文化や習慣を学びながら水産加工技術を身に付けることを誓った。

来日したのは、20〜30代までの男女8人（男性2人、女性6人）。新型コロナウイルス感染症の影響などで2年ほど来日が遅れた。

式では、受け入れ監理団体の気仙沼製氷冷蔵業協同組合の岡本寛代表が「長い時間待たせてしまったが、日本行きを諦めず、勉強し続けたことに感謝する。皆さんが早く生活に慣れるよう事業所と連携していく」などと歓迎した。

研修先となる阿部長商店の阿部泰浩社長は「東日本大震災後に労働力が減った三陸沿岸では、みなさんが大きな戦力。日本の生活や

仕事に慣れ、仲間をつくってほしい。母国では政変があり、心配もあると思うが、しっかりサポートしていききたい」などと活躍を期待した。



抱負を述べるザイン・コー・ウーさん

実習生代表のザイン・コー・ウーさん(27)は「歓迎していただき感謝したい。しっかりと研修を積みたい」などと抱負を語った。

8人は同商店の南三陸工場で研修を重ねる。同協同組合によると、ミャンマーからの実習生は今後、4月に約20人を受け入れる予定だという。

2021年2月23日(火)
三陸新報

※記事の掲載許諾を得ています